

令和7年12月19日（金）第2学期終業式式辞

皆さん、今日で2学期が終了します。

2学期は暑い中での体育祭からスタートしました。そして、修学旅行、農業祭など、大きな行事が目白押しでした。また、コンテストでは、農業クラブの全国大会出場、農業アクション大賞認定、パンコンテスト予選通過など、素晴らしい結果を残すことができました。商品開発ではサルチャやサトイモ、シイタケを使った料理でいろんな方が喜んでくださいました。各種検定やボランティア、部活動などでも、皆さんにとって実りある2学期になったと思っています。

さて、今日は、私が普段思っている、「考え方方が大人で素敵だなど、思う人」について述べたいと思います。皆さんも、高校生として大人に近づいていっていますね。そんな皆さんを考える「考え方方が大人の人」って、どんな人ですか。

いろんな表現があると思いますが、私の場合、「考え方方が大人の人」とは、「私、ではなく、あなた、を主語にして行動する人」と定義しています。

話は変わりますが、夏休みに皆さんが書いた読書感想文の中で、担当の先生が「この感想文いいですよ」といって紹介してくれたものがあります。それは、ある1年生が「15歳のテロリスト」という小説をもとに書いたものでした。感想文のタイトルは「15歳の彼と15歳の私」です。彼には、感想文がよかったです、終業式で皆に紹介していいですか、と言って了解してもらっています。感想文がとてもよかったです、私も、その後、この本を彼に借りて読んでみました。

本の主人公、渡部篤人は15歳です。「15歳」という年齢と「テロ」という物騒な言葉が並んでいることに、私も違和を感じました。なのに、この主人公篤人は、なぜそんなことを考えたのか、読み進めていくと、主人公は、社会や周囲に押しつぶされて、孤独を抱えた少年ということが分かりました。

感想文の中に、いいなと思うフレーズがたくさんありました。その一部を紹介します。

『読み終えて一番強く感じたのは、もし、篤人が自分の身近にいたら、ということです。日常の中で声をかけたり、一緒に昼ご飯を食べたりすることはできたはずです。そんな些細なことでも、彼の心を少しでも軽くすることが出来るかもしれませんと、思いました。高校生活の中で、クラスメイトや友達の小さな変化に気付くことが、実はとても大切なのだ、と気づきました。そのためには、相手を理解しようとする姿勢を忘れないことが重要です。人は誰でも、自分の思いを受け止めてもらえない、どんどん心を閉ざしてしまいます。逆にほんの一言声をかけられるだけで救われることもあります。高校生の今だからこそ、友達や先輩、先生などとの人間関係を大切にし、相手の気持ちを想像できる人間になっていきたいです。』といった感想でした。

皆さん隣にも、このように、「私」ではなく「あなた」を主語にして行動する優しい人がいるはずです。例えば、この2学期には、道端で倒れているおばあさんを助けて病院にまで付き添ってくれた人もいました。こんなことができる大洲農業生がいることを聞いてとてもうれしくなり、あらため

て大農いいな、と思いました。これほど大きなことではなくても、皆さんの中には、普段の生活で、「あいつちょっといつもと様子が違うぞ」と感じる感性や、そう感じたら声をかける行動力を持つてゐる人っていると思います。こういった感性や行動力って、大人として、とても大事なことだと私は思っていますが、みなさんどう思いますか。

2学期の始業式では、皆さんに、挑戦する勇気を持って一步踏み出すためには、失敗しても大丈夫という安全地帯にいることが大切だ、という話をしました。クラス、部活動、学校、こういった場は、主語を「あなた」にして行動できる人によって、安全地帯になっていくのだと思います。

さて、明日から冬休みとなります。2025年の、いいしめくくりができるよう、時間を大切にして、部活動をはじめボランティア活動等に積極的に取り組んでください。

それでは、3学期の始業式に皆さんと元気な姿で会えることを願って、式辞といたします。